

めぐみ

2020 年 8月号

学校法人 聖公会北関東学園
認定こども園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
<http://hatsukari-kg.jp>

環境を通して成長する

園 長 山本由香里

今もなお新型コロナウイルスの感染が広がっています。お年寄りや持病のある方、小さなお子さんのいらっしゃる方やこれから赤ちゃんが生まれる方、受験生や新しい学生生活を始めた方、働いている方からお仕事が減ってしまった方まで…今を生きるすべての方に心配がなくなることはないかと思います。

「ウィズコロナ」の言葉が浸透しています。新型コロナウイルスへの感染がなかった頃には戻らない現実を前に、それぞれに新しい生き方を探っていかなければなりません。就学前の子どもたちは、環境を通して学ぶ保育がとても大切です。環境の変化が著しい現代社会ですが、環境は周囲の大人が望ましく整えることが可能です。私たち大人は新しい生き方を探りながら、どのような環境を子どもたちに準備することができるのでしょうか。

幼稚園では保育を計画するとき、まず子どもたちの現状を理解した上で、これから経験してもらいたい内容は何かねらいを定め、そのためにどのような準備が必要か環境構成を考えます。事前に準備しておくこともあれば、当日何が起きても対応できるように子どもたちの当日の動きを予想し、その分の対応の仕方を考えておきます。

こちらの予想を大きく上回ることが起きた時には、たとえ保育がぐしゃぐしゃになっても子どもたちには拍手を送りたくなくなります。まるで子どもたちが「大人の思い通りにはならないぞ!」と強い意志を向けてきているようです。保育の面白さはここに 있습니다。下準備したものは何の役に立たなくてもいい。子どもたちが自分たちでやりたいことを見つけ、それに取り組もうとしているのなら、大人が準備しておいたものなど必要ありません。必要なのは、それをサポートできるかどうか、責任をとるべき大人側の勇気だけです。

当然、「これはやってもらったら困る」という反対のことも起こります。当事者もそうでない子もいかに自分ごととして捉え、一緒に考えることができるか。それにも保育者の本気度が重要になります。大人の声掛けのもとで一般的な社会的ルールを学ぶことも大事ですが、その時の状況で社会的ルールに反することでもとるべき最善の方法であることがあります。私たち大人が日頃から様々な立場の人を思い、広い視野で物事を捉えようとしているかを問われているように思います。

大人の声掛けのもと想定内で収まる保育を展開していると、想定外の出来事が起きた時に柔軟に対応することが難しくなってしまう可能性があります。言うならば、子どもの行動を想定内に収めてしまっているのは大人なのかもしれません。

ここまで書いておきながら、自分自身の保育を振り返ると反省することばかりでした。第一に保育をうまくやろうとすることが間違っていました。保育は子どもと一緒に楽しみながら、個々の成長を身近で感じ喜びを感じるもの。楽しみながら喜びを感じているうちに、自然に気持ちに余裕ができ、大人にも子どもにも望ましい環境が整うのかもしれません。実のところ、子どもたちの用意してくれた環境を通して大人が成長させてもらっているのだと思います。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ

「いのる」

目 標

- 保育者や友だち、家族とゆったり過ごす
- さまざまな人や環境に出会い、いろいろな経験をする
- 離れて過ごす友だちを思い、祈る

学年別のねがい

(1歳) 夏の遊びを楽しむ

(2・満3歳) (年少組)

保育者や友だちと夏の遊びを存分に楽しむ

(年中組) 離れて過ごす友だちを思ったり、一緒に過ごす友だちと存分に遊ぶ

(年長組) 平和を考え、願い、ともに祈りながら過ごす

ひ と こ と

やっと晴れ間が見え始め、夏を感じられるのではと思えるようになってきました。幼稚園で過ごす友だちも、ご家庭で過ごす友だちも、ともに健康には十分に気を付けながら、この夏にしかできない経験を持てたらいいなと思います。近くにいても、離れていてもお互いを感じ、祈りながら日々を送りたいと思います。いつも恵みとお導きを与えてくださる神様に感謝をしながら。

★予

定☆

日	曜	行事などの予定
1	土	就労家庭保育実施日
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	就労家庭保育実施日
9	日	
10	月	山の日
11	火	
12	水	
13	木	就労家庭保育実施日
14	金	就労家庭保育実施日
15	土	就労家庭保育実施日
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	就労家庭保育実施日
23	日	
24	月	始業式
25	火	
26	水	8月生まれ誕生会
27	木	
28	金	
29	土	保育参観 ★預かり保育なし
30	日	
31	月	1号認定家庭振替休園 就労家庭保育実施

チャプレンのページ



善を行うこと

「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、
悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか」

(マルコによる福音書 第3章4節)

イエス様がおられたユダヤの国には律法が定められ、その中に安息日に関する規則がありました。安息日というのは現在の土曜日で、創世記の冒頭の天地創造物語の中で、神様が6日間かかって世界をお造りになり、一日休まれたのを記念するために定められたものです。すなわちこれによって私たちの基本的生活ルールである一週間が定められ、週のうち一日は、神様に心を向ける日として安息日が定められていたのです。

当時、安息日にはどんな仕事もしてはならないとされていました。料理も仕事であるので、前日まで終えておかねばならないとか、お医者様も、医療は立派な仕事であるので、命に関わることでない限り、医療も行ってはならないとされていたのです。

標記の聖書の箇所は、ある安息日に手の不自由な人がイエス様のところへ連れてこられた場面です。ユダヤの指導者たちは、イエス様がこの人に対して癒しの業を行えば、それは律法違反だと決めつけるつもりでした。なぜならばこの人への癒しは、緊急事態ではなく、明日でもよいはずだと考えていたからです。

しかしイエス様は、この人の癒しは緊急事態であると言われたのです。長年、手のことで苦しみ、差別を受け、仕事もできず、社会から罪人と決めつけられていたこの人を救うのは、緊急事態以外の何ものでもないと言われたのです。

しかし、この人への癒しは緊急事態ではないと考えるユダヤの指導者たちは、その考えを改めはしませんでした。イエス様は彼らのかたくなな心を悲しみながら、この人への癒しの業を行いました。冒頭の聖書の箇所は、この人への癒しは緊急ではないと主張するユダヤの指導者たちへの、イエス様の悲しみと嘆きに満ちた言葉です。

聖書は、苦しんでいる人、悲しんでいる人、人々から蔑まれている人への救いは緊急であると語っています。これはよく理解できることではないかと思いますが、自分のことで精いっぱいになってしまうと、このことを忘れがちになり、緊急性が後回しになったり、自分のことを優先したりするようになってしまいます。この聖書の箇所は、そうした人間の思いへの言葉で

あり、私たちが緊急にせねばならないことは何であるかを改めて問い直す内容でもあります。

新型コロナウイルスの影響で、今、様々な優先順位が入れ替わっています。それは当然のこととあれば仕方がないこともあるでしょう。そうした中で、私たちの中で最重要・緊急課題である子育てにどのように取り組んでいるか、改めて問い直してみたいものです。

(チャプレン 鈴木 伸明)

クラスの窓



つくし組

お昼寝後の楽しい時間

雨で散歩やプール遊びができない日が続いた7月。午前中はホールで体を動かして遊び、午睡後、雨雲のかかっている時間帯を見計らって、もも組とお散歩に出掛けていました。「お散歩いこうか」と尋ねると持っていた玩具を放り出し、「いこいこ」とみんなワクワクします。

雨の合間のお散歩は楽しみがいっぱい。葉っぱに溜まった雨水を触って見たり、普段子どもたちからは見えにくい蜘蛛の巣が雨水でキラキラ見えたり。歩いている子は水溜りをジャンプするのも雨の日の楽しみの一つです。

園へ戻るとゆったりと室内遊びを楽しみます。型はめを楽しむ子、絵本を読んでもらう子、ぬいぐるみをおんぶしながらお料理をする子も…。それぞれの好きなもので遊んでいます。楽しく遊んでもお迎えの方の姿が見えると飛び切りの笑顔で駆け寄る子どもたちです。おしゃべりはまだできないけれど、子どもたちの笑顔の中にはお迎えの方へ「おかえりなさい！今日〇〇して遊んだんだよ！楽しかったよ！」と思いが込められているのだと思います。

もも組

全体礼拝に参加しています

休園期間が終わり、通常保育が始まってから一ヶ月。今年度の全体礼拝が始まりました。今年度からもも組も毎週金曜日は幼児クラスに加わり、全体礼拝に参加をしています。大勢の集まる雰囲気や知らないお祈りに最初はドキドキしていた子どもたちですが、今では「今日はみんなでお祈りにいくよ」と伝えると「アーメンだね」「おててはギュッとするんだよね」と話しています。

礼拝では真剣にお祈りをするお兄さんお姉さんをよく見ていたり、知らないながらも歌をうたってみようとしてみたり、すべての言葉は言えなくても、「～ます」「アーメン」とわかるところを言ってみたり…。それぞれの子どもたちが自分のやり方で神様とお話をする時間を持っています。

大きな友だちの姿を見て、本当の礼拝に参加することで神様の存在をより感じられるようになった子どもたち。今では朝の会や食事前に「あれ？おいのりまだしてないよ？」と保育者に

教えてください。そんなも組のみんなが神様の愛の中でますます健やかに育っていくことが楽しみです。

ちゅうりっぷ組

友だちと遊ぶって楽しい！

新学期が始まってから約2ヵ月、園の生活にも慣れてきた様子のちゅうりっぷ組です。最近では欠席の子は誰か聞くと「何マークの〇〇ちゃん！」と教えてくれたり、朝の支度を友だち同士で手伝ってくれたりとクラスの友だちを意識している様子が見られます。

ちゅうりっぷ組では「かごめかごめ」や「むっくりくまさん」などのゲームが流行っているのですが、いつも先生を含めて遊んでいました。ところが先日の雨の日。ふと部屋を見ると10人程で手を繋いで「むっくりくまさん～」と歌っているではありませんか！恐らく自分たちでやりたい人を募り、くまさんをやりたい人を決め、手を繋いで始めていたのですが、その姿にびっくりしました。キャーキャー言いながら「もう一回やろう！」と誰かが言うともた輪になって始まり、その後も先生は入らずに何度か遊び、みんなでルールを言い合いながら楽しそうに走り回っていました。友だちと遊ぶって楽しいよね♪これからもいろいろなゲームをしたり、みんなで遊べる楽しいことができたかなと思います。

たんぽぽ組

ゾウさんの噴水登場！

梅雨がなかなか明けず、午前中に水遊びができない日々が続きました。午後になると「水遊びをしたい！」という声が必ず上がります。ちょっと肌寒いけれど、そんなこと気にせずに冷たい水に飛び込んでいく子どもたち。

7月半ばには、ゾウさんの噴水が届きました。その噴水が届くまでに「ひょっこりひょうたん島の体操を踊れるようになること」が誕生会の出し物で先生たちとお約束したことでした。6、7月毎日のようにたくさん踊って練習したみんな。もう誰が見ても完璧に踊れます。初めて噴水を楽しんだ日はみんな大興奮！思わず私も一緒に楽しみました。雨のように水が降ってきたり、細かいミストが飛んできたり。水遊びがちょっぴり苦手な友だちも、これには笑顔が見られました。

8月から始まる2学期。まだまだ水遊びが盛り上がりそうです。全身びしょりになって弾ける笑顔、泥んこまみれになるみんなの姿が目につかびます。

すみれ組

草津キャンプ、楽しみ！

6月下旬、他のクラスには秘密の話が始まりました。「草津キャンプの秘密」です。「いつ行くの」「先生は誰が行く」「何に乗って行くの」そんなクイズから始まって、少しずつどんなことをするのかを話していきました。どの話に対しても反応がいい子どもたち。毎日お話を一つ聞くのが楽しみで、支度や椅子並べも、自分たちでどんどん進めるようになっていきました！

話が進むにつれ、キャンプを楽しみにする声上がるようになりました。そこで、みんなでキャンプごっこをすることを提案しました。西の河原ごっこ、キャンプファイヤーごっこ、温泉ごっこの3つを順に楽しみました。西の河原と温泉は、ホールに行って大型積木を並べ、自分たちがイメージするものを作り上げて、最後にみんなで遊びました。キャンプファイヤーは

すみれ組の部屋のカーテンを閉め、電気を消し、真っ暗な中にライトをつけて歌ったり踊ったり！終わった後には、「またやりたい」「早く行きたい」とキャンプに対して前向きになる姿が増えていきました。まだまだ不安も抱えている子どもたちですが、「みんなとなら」という思いも強まっています。キャンプでお互いに励ましたり、協力しあったり、今まで以上に成長する姿を見られるのがとても楽しみです。